



国際交流特集

No. 76

The University of Tokyo Forests News

# 科学の森ニュース

December 10, 2016

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

## 演習林における国際交流活動

国際交流委員会委員長 鎌田直人

演習林には多くの留学生が所属していますが、ほかにも、国際交流委員会が中心となり国際交流を進めています。歴史の古いものとしてはアジア大学演習林コンソーシアムのシンポジウム (SAUFC) があります。これまで、国立台湾大学・ソウル国立大学校と交替で開催しており、先日第7回を北海道演習林で開催しました。また、これら3校にマレーシアサバ大学とカセサート大学（タイ）を加え、今年4月より日本学術振興会の研究拠点形成事業に採択されました。一方で、国立台湾大学とは2015年度より文科省の戦略的パートナーシップ事業に採択され交流を深めています。さらに今年8月には、演習林が中心となり、中国の海南大学と学術交流協定を締結しました。本号ではこれらの活動について紹介します。



第7回のSAUFCにおける集合写真（左上）と北海道演習林苗畑の見学（右上）  
戦略的パートナーシップ事業を通じた国立台湾大学との交流：千葉演習林での  
エクスカージョン（左下）と弥生での合同会議（右下）

## 第7回 SAUFC が開催されました

### 北海道演習林

10月11～14日に、日本学術振興会の研究拠点形成事業の一環として7th International Symposium of the Asian University Forests Consortium (SAUFC) が富良野市で開催され、韓国、台湾、マレーシア、タイ、日本から教職員と学生合わせ67名が参加しました。初日は5カ国の代表者による基調講演の後、34件のポスター発表が行われました。二日目は3つの分科会に分かれ、今後の各国大学演習林間での共同研究やネットワーク作りについて議論が交わされました。13～14日は、北海道演習林や銘木会館、木材会社等を見学し、東大演習林の森林管理や研究、北海道の林業についての紹介が行われました。



SAUFC での講演の様子

## 海南大学園芸園林学院との 学術交流協定締結

### 企画部

本年8月に海南大学園芸園林学院と本研究科との間で「学術交流協定に関する協定書」が発効しました。両者間で「教職員、学生の交流」、「共同研究、講義等の実施」、「学術情報等の交換」を進めるための協定で、同時に締結された「学生交流に関する覚書」により毎年5名の交換留学生を受入（派遣）することも出来ます。園芸園林学院の宋希強学院長は演習林の招きで客員教員として本研究科に半年間滞在されたことがあり、その縁で演習林が窓口となつての協定締結となりました。今後、演習林も教育研究両面で活発な交流を進めていきたいと思ひます。

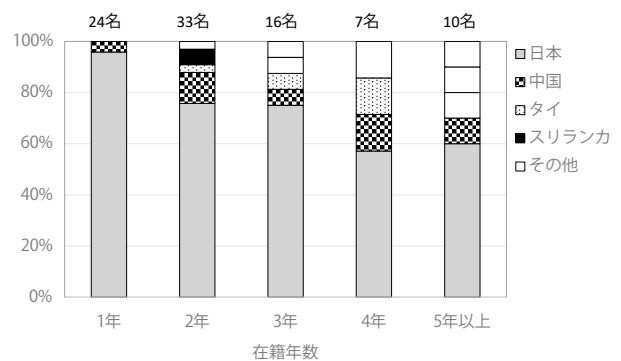


11月に海南大学で演習林の教員が行った講義の様子

## 国際色豊か、演習林所属の留学生

### 教育研究センター

演習林に所属する学生の中で留学生が占める割合は比較的多く、学生たちは国際的な環境で日々を過ごしています。調べてみると、2000年度から2015年度に演習林に所属した学生90名のうち、2割以上に相当する20名が留学生でした。20名のうち、1位は隣国である中国（8名）ですが、2位以降はタイ、スリランカ、インドネシア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ミャンマーなど、東南アジアを中心に実に多様でした。また、在籍年数が5年以上であった学生10名のうち4名は留学生で、学生の中でも中心的な役割を果たしてくれていました（下図）。このような環境にいるせいか、日本人学生もあまり構えることなく留学生とコミュニケーションを取り、様々な話をしている様子です。最近では、マレーシア、フランス、カナダなどからインターンシップを受け入れることもあり、一層、国際色が豊かな学びの場となっています。



その他には、インドネシア、ネパール、パプア・ニューギニア、ペルー、ボスニア・ヘルツェゴビナ、マレーシア、ミャンマーが1名ずつ含まれています。

当演習林には4つの研究室（森林圏生態学、森林生物機能学、森林圏生態社会学、森林流域管理学）があり、現時点で計26名の教員（教授3、准教授4、講師5、助教13、特任助教1）が在籍しています。演習林内に常置した研究推進委員会が、演習林教員の共同研究を組織的に推進しています。2009年度には気象データ、2010年度には水文データの解析研究会を開催し、長期データを利用した研究を共同で実施してきました。

このたび、当演習林による研究交流課題「アジア森林圏の環境変動と生態系応答を把握する長期観測フィールドのネットワーク構築」（コーディネーター：鎌田直人教授）が平成28年度日本学術振興会研究拠点形成事業（B. アジア・アフリカ学術基盤形成型）に採択され、国際的な研究交流の取り組みを開始しました。本事業では、アジアモンスーン地域の多様な気候・植生帯に演習林・試験林等を保有または管理する5か国（日本、韓国、台湾、タイ、マレーシア）の大学が協働して、安定的、継続的な長期観測フィールド拠点の整備と、緊密な連携に基づいた多国間研究協力ネットワークの構築を進めていきます。多様な専門分野を持ち、フィールドを熟知した多数の演習林教員が参加し、相手国機関の研究者と協働しながら、学際的かつ現実に即した長期森林研究の展開を目指しています。

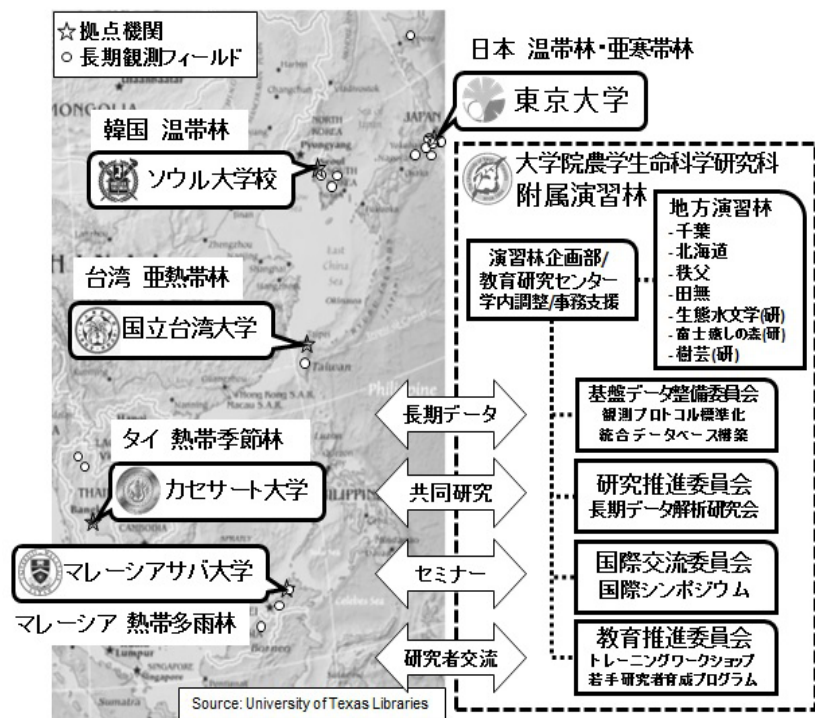


図. 研究拠点形成事業を通じた国際研究協力ネットワークの構築

### 演習林のイベント情報

詳細はホームページをご覧ください。各地方演習林にお問い合わせください。

#### 【12月】

- 2日 利用者発表会◆（秩父）
- 3日 東大教職員向け特別ガイド「千葉演習林で楽しむ紅葉とランチ」◆（千葉）
- 4日 休日公開（田無）
- 4日 東大教職員向け「リース作り体験会」◆（田無）
- 4日 シデコブシの会「標石を探そうツアー」（生水研）
- 9-11日 体験ゼミ「癒しの森を創る（冬）」☆（富士）
- 11日 影森祭（秩父）
- 17-18日 体験ゼミ「森の魅力をマッピング」☆（富士）

#### 【2月】

- 3日 森林博物館資料館一般公開（千葉）
- 4日 東大教職員向け特別ガイド「冬のさんぼみち」◆（富士）
- 10-14日 体験ゼミ「伊豆に学ぶ1」☆（樹芸）
- 11-14日 体験ゼミ「森のエネルギーを使いこなす」☆（田無、富士）
- 20-22日 体験ゼミ「雪の森林に学ぶ」☆（北海道）
- 25-3月1日 体験ゼミ「伊豆に学ぶ2」☆（樹芸）

凡例…無印：一般向け ☆：学生向け ◆：その他  
(<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>)

#### 【2017年1月】

- 7-9日 体験活動プログラム「南伊豆という地域との連携に学ぶ」☆（樹芸）
- 21日 公開講座「秩父演習林の動物（仮題）」（秩父）
- 28-2月1日 体験ゼミ「伊豆に学ぶ—熱帯植物編—」☆（樹芸）

北方樹木コレクション

林木育種学の世界的権威であったスウェーデンのリンキスト教授が1952年に来訪したのを契機に、北海道演習林では林木育種研究に着手しました。これに伴い、北米・北欧を中心とした国内外の数多くの大学・研究機関との間で、種子・穂木などの育種材料の交換が活発に行われました。その送付件数は481件、受入件数は408件に上ります。国際交流の果実ともいえる導入材料は現在、計8か所の樹木園・見本林等に植栽されています。これらの北方樹木のコレクションは、樹木学、育種学、造林学に関する資料として、極めて貴重なものとなっています。

北海道演習林



植栽地の一つ、1917年に設置された山部外来樹種見本林

コラム

演習林の教育活動における国際交流

教育推進委員会

2011年に定められた「東大演習林のミッション」を実現するための3つのキーワードとして「世界をリードする教育研究の森」が挙げられており、教育活動における国際交流を活性化させることが宣言されています。このうち研究については、国際交流委員会と研究推進委員会の協働で推進されてきましたが、教育については、2013年4月7～13日にマレーシアサバ大学の学部生24名の実習を千葉、秩父、富士、弥生で受け入れたことが呼び水となって本格的な取り組みが開始されました。2015年12月に開催された国立台湾大学との戦略的パートナーシップのフォーラムにおいて、学生の相互交流を目的としたサマースクールが提案され、2016年9月1～14日に東大・筑波大の学生が国立台湾大学のサマースクールに参加しました。また第7回SAUFCに参加した国立台湾大学の大学院生5人が、特別エクスカッションとして2016年10月15～19日に生態水文・富士および弥生を訪問し、施設見学や学生同士の交流を行いました。2017年度は東大・筑波大が協力してサマースクールを企画中で、国立台湾大学の学生が来日する予定です。



研究室を訪問し、学生の説明を熱心に聞いている国立台湾大学学生（写真は高分子材料学研究室）

科学の森ニュース (The University of Tokyo Forests News)

第76号 (No. 76)

発行日 平成28年12月10日

発行人 富樫一巳

編集人 後藤 晋

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林広報情報委員会

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori2015@uf.a.u-tokyo.ac.jp